

【 復活のトロパリ 第7調 】

ハリスト オスカ みよ、なんぢはじゅうじかにてしを
 神 爾 十 字 架 死
 ほろぼし、とうぞくのためにくえんをひ
 滅 盗 賊 爲 樂 園 開
 らき、けいこうぢよのかなしみをなぐさ
 攜 香 女 悲 慰
 め、しとになんぢがふくか つして、せか
 使 徒 爾 復 活 世 界
 いにおおいなるあわれみをたまいしをつたえ
 大 憐 賜 傳
 させたまえり。
 給

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しとひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠
 じつにしてしちなるハリスト スのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖
 なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛
 にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しょ お しゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教聖
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生命 賜 聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調】

こうえいはちちとこ と せいしんにき
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す、
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒聖 我
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受
 しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて敵
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことな爲し、かれらにか神
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩 寵 與 教 會 建

た、り、い、ま、こ、の、き、ょう、か、い、の、た、め、に、い、の、り
今 此 教 會 爲 祈

た、ま、え、け、だ、し、わ、れ、ら、そ、の、し、よ、し、は、なん
給 蓋 我 等 其 諸 子 爾

ぢ、に、よ、ぶ、わ、が、よ、き、ぼ、く、し、や、よ、よ、ろ、こ
呼 我 善 牧 者 慶

べ、よ。

【 復活のコンダク 第7調 】

いまもいつもよよにアミン。
今 何 時 世 世

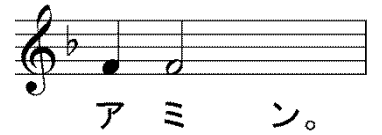
しのけんはすでにひとびとをとらうるあた
死 權 已 人 人 捕 能

わ、ず、け、だ、し、ハ、リ、ス、ト、ス、は、く、だ、り、て、そ、の、ち、力
蓋 降 力

からをやぶりてほろぼしたま えり 。 ぢご
 敗 滅 給 地 獄
 くはしばら れ 、 よげんしゃは どうし んによろ
 縛 預 言 者 同 心 喜
 こびてよ ぶ 、 きゆう せいしゅ は しんにおる
 呼 救 世 主 信 居
 ものにあらわれた り 、 しんじゃよ 、 ふく
 者 現 信 者 復
 か つして いいで よ 。
 活 出

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行つる者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖

じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 殺 聖 常 生 者 我 等 を

あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 主日第7調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。
 爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主は其民に力を賜い、主は其民に平安の福を降さん、

しゅはそのたみにちからをたまい、しゅは
 主 其 民 力 賜 主

そのたみにへいあんのおふくをくだ
 其 民 平 安 福 降 だ

さん。

誦經) 神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

しゅはそのたみにちからをたまい、しゅは
 主 其 民 力 賜 主

そのたみにへいあんのふうくうをくだ
其民平安福降

さん。

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま} 主は其民に力を賜い、

しゅはそのたみにへいあんのふくをくだ
主其民平安福降

ださん。

【 使徒經 (アポストロス) 280 半端 ティモフェイ前書1章15節~17節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと たつ しょ よみ} 聖使徒パウエルがティモフェイに達する書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{こ ざいにん すく ため よ きた こ まこと} 子ティモフェイよ、ハリストス イスは罪人を救わん爲に世に來たれり、此れ信なる、

^{まつた う ことば ざいにん うちわれだいいち しか わ あわれみ こうむ} 全く受くべき言なり、罪人の中我第一なり。然れども我が矜恤を蒙りしは、イ

^{ま われ おい まつた かんにん しめ のち かれ しん えいえん いのち え} ス ハリストスが先づ我に於て全き寛忍を示して後、彼を信じて永遠の生命を得ん

^{ほつ もの もはん な ため ねが そんなけい こうえい ばんせい おう やぶ べ} と欲する者の模範と爲さん爲なり。願わくは尊敬と光榮とは、萬世の王、壞る可から

^{み べ どくいつえいち かみ むきゆう よ き} ず見る可からざる獨一睿智の神に、無窮の世に歸せん、アミン。

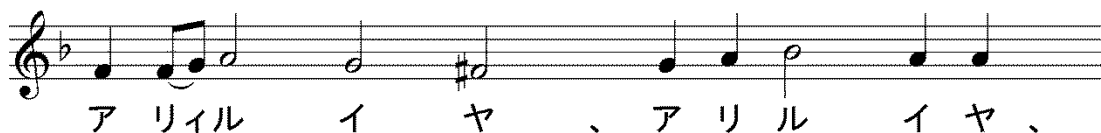
(比較用 口語訳) 我が子テモテよ、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確實で、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。世々の支配者、不朽にして見えざる唯一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光とがあるように、アアメン。

司祭) ^{なんぢ へいあん} 爾に平安、

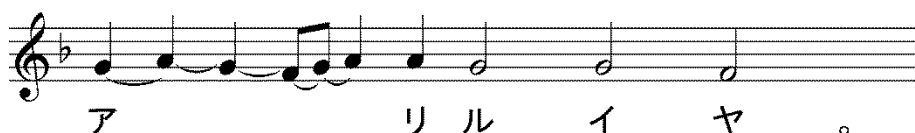
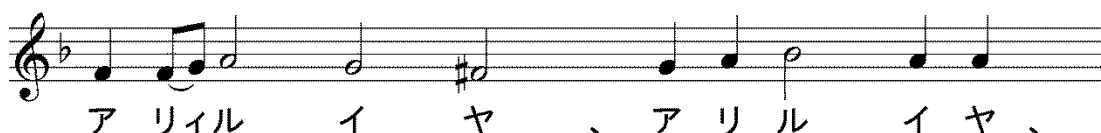
誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、

【 ア ril イヤ 主日第2調 】

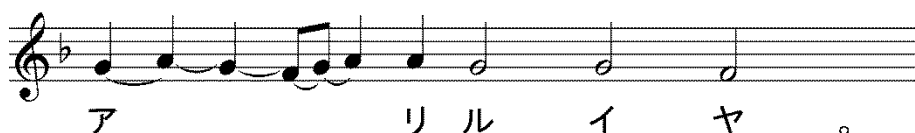
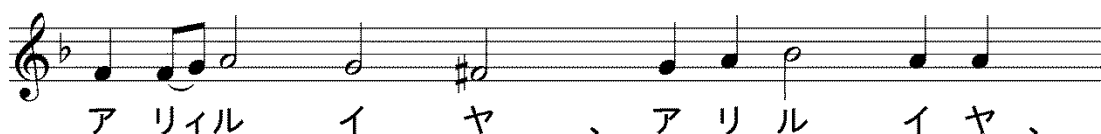
司祭) ^{えいち} 睿智、



誦經) ^{ねが しゅ うれい ひ おい なんぢ き} 願わくは主は憂の日に於て爾に聴き、^{かみ な なんぢ ふせ まも} イアコフの神の名は爾を扨ぎ衛らん、



誦經) ^{しゅ おう すく またわれら なんぢ よ とき われら き たま} 主よ、王を救え、又我等が爾に呼ばん時、我等に聴き給え、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん
 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし
 いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ
 て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 93 端 18 章 35~43 節 】

司祭) 睿智、 肅みて立て聖福音經を聴くべし、 衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イイス、イェリホンに近づける時、或瞽者道の旁に坐して乞えり。民の過ぐるを聞きて、是れ何事ぞと問えば、人人彼にイイス ナゾレイの過ぐるなりと告げたり。彼呼びて曰えり、ダヴィドの子イイスよ、我を憐め。前に行く者彼を禁めて黙さしむれども、彼愈大に呼べり、ダヴィドの子よ、我を憐め。イイス止りて、彼を攜え來るを命じ、其近づきし時、之に問いて曰えり、我が爾に何を爲さんことを欲するか。彼曰えり、主よ、我が見るを得んことを。イイス彼に謂えり、見るを得よ、爾の信は爾を救えり。彼直に見るを得、神を讚榮して、イイスに從えり。衆民是を見て、讚美を神に歸せり。

(比較用 口語訳) イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと言われたので、声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデ

の子よ、わたしをあわれんで下さい」。そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。彼が近づいたとき、「わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになった。そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。
 爾 歸 す。

※ 聖体礼儀③（金ロイオアン）へ